

頻度

15度以上の脊柱側弯は、進行する危険性があり、思春期側弯症の頻度は約2%。

健診での注意点

特発性側弯症は3歳以下に発症する乳幼児期側弯症、4~9歳にみられる学童期側弯症、10歳以降に発症する思春期側弯症に分類される。なかでも思春期側弯症が最も多く約80%を占める。思春期側弯症は女子に多く、胸椎右凸の弯曲が多い(図1)。身体診察は立位で背部を観察し棘突起列の弯曲、肩の高さの左右差、肩甲骨の高さと突出の程度の左右差、ウエストラインの左右非対称、体幹を前屈して肋骨や腰部の隆起による高さの左右差を診る。)¹⁾

< 図 1 > 思春期脊柱側弯症



フォローアップ方針

医療機関に紹介する。

本人と家族に対して今後注意すべき点などのアドバイス(Anticipatory Guidance)

身長が伸びる時期に脊柱側弯は増悪するため医療機関の受診が必要。

【参考文献】

1. 許斐恒彦、竹光正和：特発性側弯症。小児疾患の診断治療基準第5版。「小児内科」「小児外科」編集委員会共編。東京：東京医学社；2018：874-875